

# 図書便り 9月号

2021年9月 発行：新宮中学校図書館

米中枢同時テロから二十年、先月末の米軍のアフغانستان撤退をきっかけに、同国ではタリバン政権が復活しました。タリバンはイスラム教の教えに非常に厳格なため、この二十年間の民主化を支持する人びとや米軍や外国に協力してきた人びとは将来への不安や身の危険を感じ、国外に逃れました。今後民主的な統治が行われるのか、国際社会は注視していかなければなりません。そもそも米国がアフغانستانに派兵したのは、米中枢同時テロの首謀者オサマ・ビン・ラディンをタリバンがかくまっているという理由からでした。しかし現在も、対テロ戦争の解決には至っていません。

## ★ 真の人道支援とは

『カカ・ムラドーナカムラのおじさん』  
ガフワラ/原著 さだまさし他/訳・著  
(双葉社) 289カ



2019年、支援先のアフغانستانで凶弾に倒れた中村哲医師。一方の「正義」を押しつけたりせず、相手の文化や思想を敬い寄り添うことを大切にしてきた中村先生の志を継いだ人びとの思いが形になった絵本。

## 米中枢同時テロ

2001年9月11日、四機の旅客機がハイジャックされ、そのうちの二機が米国ニューヨークの世界貿易センタービルに、一機がワシントンの国防総省（ペンタゴン）に衝突（残りの一機は乗員・乗客が抵抗し途中で墜落）。合計で三千人近い死者が出た。犯行に及んだのは国際テロ組織アルカイダ。その首謀者オサマ・ビン・ラディンは、裁判にかけられることもなく2011年米軍特殊部隊により殺害された。

参考文献『13歳からのテロ問題』 加藤朗/著（かもがわ出版）



『池上彰の世界の見方 中東』  
池上彰/著（小学館）302イ

現在の中東の混乱は、1978年のソ連によるアフغانستان侵攻から振り返ると分かりやすいと説く。人気識者の解説で、中東情勢の基本が驚くほどよく分かる。



『13歳からのテロ問題』  
加藤朗/著（かもがわ出版）316カ

米中枢同時テロ発生から10年の節目に、中学生に向けて行った授業の様子をまとめたもの。教師と生徒がともに学び、創り上げていく「共育」の現場に惹き込まれます。



27日（月）からは短いながら昼休みがあります。他に朝の始業前・10分休み・放課後も図書館は開館していますので、夏休み貸出の図書をまだ返却していない人は、時間を見つけて早めに来館するようお願いいたします。



# まだまだ熱烈募集中!!

## 指定図書

★自由図書の部もあります



『赤毛証明』  
光丘真理/著  
(くもん出版) 913ミ  
赤毛が地毛であることを証明する印を生徒手帳に押されたメグ。意味のない校則に反意を示して立ち上がった少女の物語。



『ある日、透きとおる』  
三枝理恵/著  
(岩崎書店) 913サ  
ある日、透明になっていた。親の期待に応えたい、その思いが募り徐々に自分が消えていく。本来の自分を探す旅が始まる。



『ワタシゴト』  
中澤晶子/著  
(汐文社) 913ナ  
書名は「渡し事=記憶を手渡すこと」「私事=他人のことではない、私のこと」を意味する著者の造語。戦争の遺品は私たちに何を語りかけるのか。

## 第65回西日本読書感想文コンクール



応募希望者は美術科の豊村先生まで(10月15日締切)

## 課題図書

★自由図書の部もあります

### 『with you』

濱野京子/著  
(くもん出版) 913ハ  
母親の介護に携わる「ヤングケアラー」の少女・朱音に恋をした悠人。誰かを大切に思うことを描いた物語。



### 『アーニャは、きっと来る』

マイケル・モーパーゴ/著 佐藤見果夢/訳 (理論社) 933モ  
第二次世界大戦中のフランスの村。羊飼いの少年ジョーは、ユダヤ人の子供たちの亡命を助けることになる。命の尊さを謳う、映画化もされた感動作。



### 『牧野富太郎: 日本植物学の父』

清水洋美/著 (汐文社) 289シ  
学歴はなくても、誰にも負けない情熱がある! 日本全国の野山を駆け巡り、集めた標本は40万点。数多くの新種を発見し、命名した植物は1500種類以上。日本が誇る植物学者の人生。



## 第67回青少年読書感想文全国コンクール

